

抄録の書き方について

一般社団法人 日本体外循環技術医学会

このガイドラインは、JaSECT 学術大会に投稿される一般演題の抄録を適正に記載するためのガイドラインです。本学会の掲載論文と同等の要件を満たすようチェックリストを作成しました。これに沿って抄録の作成をお願いします。なお、最終的な採否の判断は大会長の責任により決定されます。

■ チェックリスト

「二重発表」について確認する。

【定義】既に発表された内容と実質的に同じ内容の発表

ただし、特殊発表（シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなど）他言語での発表は除外する。

- ◆ 初回発表であることを自己申告する。（抄録登録時に記入欄があり）
- ◆ 続報であれば前回学会名と第何報目かを自己申告する（抄録に記入したか確認）
- ◆ 一般演題の抄録は基本的に論文と同等であり、原則として、IMRAD 形式（Introduction, Methods, Results And Discussion）（緒言～考察、結語）の記載で記載する。（原則として、フリーフォーム記載は一般演題として不適切。特殊発表はその限りではない。）
- ◆ 表題は内容を適切に表現している。（商品名などは極力用いない。）
- ◆ 目的・背景は研究の意義を明確に示す。

■ 背景

- ◆ その問題を解くことの意義は何か。
- ◆ その問題についてこれまでにどんなことが解明されているのか（先行研究を引用して述べる）。

■ 目的

- ◆ 具体的にどんな問題の解決を試みるのか、またその意義は何か。
- ◆ 今回の研究のどこに新規性があるのか。
- ◆ 今回の研究の到達目標は何か。
- ◆ 研究方法は、研究目的・目標達成を明確に示すことができているか。
- ◆ 対象は適切か。
- ◆ データ収集方法および手順を示しているか。
- ◆ 実験や調査に使用した機器やソフトウェア、あるいは分析対象のデータの取得方法について、順序立てて説明したか。
- ◆ 分析方法は妥当か。
- ◆ 結果の分析や統計解析の手法を明確に記述したか。統計学的な解析を行った場合は、使用した手法を記載する。「結果」や「考察」に書くべき事項が紛れ込んでいないか。
- ◆ 実験を行った場合は、実験のプロトコルを記載する。
- ◆ 結果は研究目的に沿った結果を示している。事実を客観的に示しているか。
- ◆ 「目的」で設定した目標達成について、信頼できる数値で結果を記述したか。
- ◆ 本文中で、数値で結果を述べる際は単位を明示したか。
- ◆ 統計学的な解析結果を提示する際は、国際的に推奨されている形式に則っているか。
- ◆ 結果を述べる際に、主観的、あるいは曖昧な意味の形容詞や副詞を使っていないか。

- ◆ 「方法」や「考察」に書くべき事項が紛れ込んでいないか。
(考察は得られた結果に基づいた解釈し、研究目的に沿った考察を示す。)
- ◆ 今回の研究結果で検討を要する項目を挙げ、客観的な数値や過去の信頼できる先行研究の結果に基づいて考察する。
- ◆ 結果はどのような場合に適用できるかを明示する(この研究の一般性)。
- ◆ 結果はどのような場合には適用できないかを明示する(この研究の限界)。
- ◆ 次に検討すべき残課題(または今後の展望)を述べる。
- ◆ 「方法」や「結果」に書くべき事項が紛れ込んでいないか確認する。
(結語は全体の要約・主旨、提言や残された課題、研究の展望等を簡潔に示す。)
- ◆ 研究の背景・目的と方法を簡潔にまとめたか。
- ◆ この研究で明らかになった新たな知見を簡潔にまとめたか。
- ◆ 「結語」は「結論」または「まとめ」と書くこともある。
- ◆ タイトルと結語が一致してるか。
- ◆ 発表内容に個人や企業への、誹謗中傷がないことを確認する。

■ 倫理的配慮がなされているか確認する。

具体的には以下を参考にする。

- ◆ イニシャルの表記がないか。
- ◆ 症例報告では、日付の明記が患者の特定に至る場合がある。20XX年など、特定できない工夫がなされているか。
- ◆ 身長や体重は、治療条件の評価に必要な項目であるため削除する必要はない。
- ◆ 年齢は正確な年齢ではなく、〇〇歳台と記載されているか。
- ◆ 未承認装置が使用されていないか確認する。(倫理委員会等で認められている場合は、商品名を記載しない)
- ◆ 対象者の不利益が生じないように配慮している。
- ◆ 体外循環と関係ない発表でないか確認する。ただし、大会長が承認した場合はこの限りではない。
- ◆ 製品などの企業宣伝が強すぎないか。
- ◆ 文章は解りやすい表現となっているか確認する。
- ◆ 出来るだけ短文で記載されている。(「・・・し、・・・」、「・・・り、・・・」、「・・・でき、・・・」などが多用されて長文となっていないか確認する。)
- ◆ 論旨がはっきりしているか。(主語と述語の一致。代名詞が多用されていないか。異なる内容は改行が適切に行われているか。)
- ◆ 漢字および仮名書きが正しく使用されているか確認する。

■ 『体外循環技術』投稿原稿のしおり

(<http://jasect.sakura.ne.jp/wp/wpcontent/uploads/2019/06/2010002toukou.shioripdf>)に漢字を用いてはいけない例、なるべく仮名書きする語、原則として漢字を使用する語、正しい送り仮名、単位記号を参考に確認する。

- 本学会では内閣告示第 2 号の「外来語表記」を参考に 3 音以上の用語でも長音符号は省くことなく付けることを原則としている。

- その他
 - ◆ (以下…)と省略する場合は、(…のみとする。
 - ◆ 抄録本文内で〈および〉の記号を使うときは(たとえば $p < 0.05$ 、 $CO > 2.2$ が挙げられます)、必ず全角の〈および〉であるか確認する。
 - ◆ 自分以外の誰かに読んでもらったか。

2021年10月5日作成